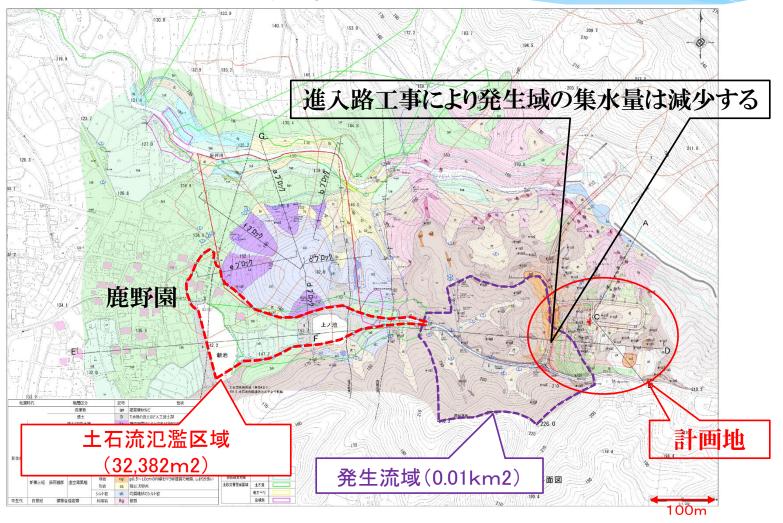
説明資料(土石流)

2016年5月22日

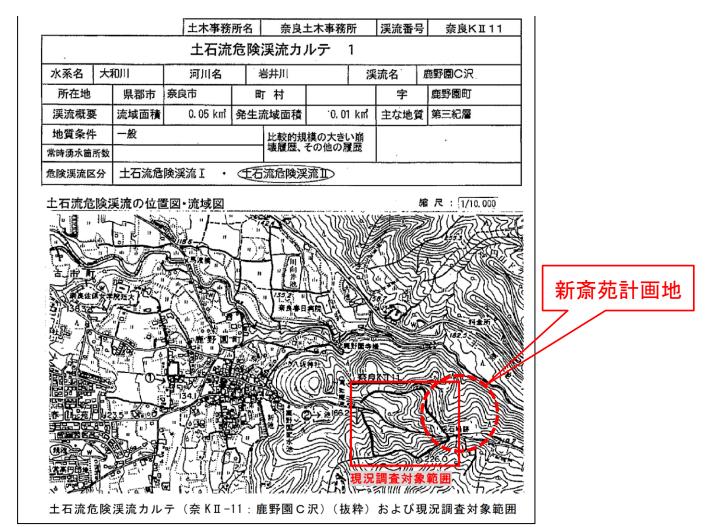
地表地質踏査の結果地質分布図



土石流危険渓流 (奈良県)

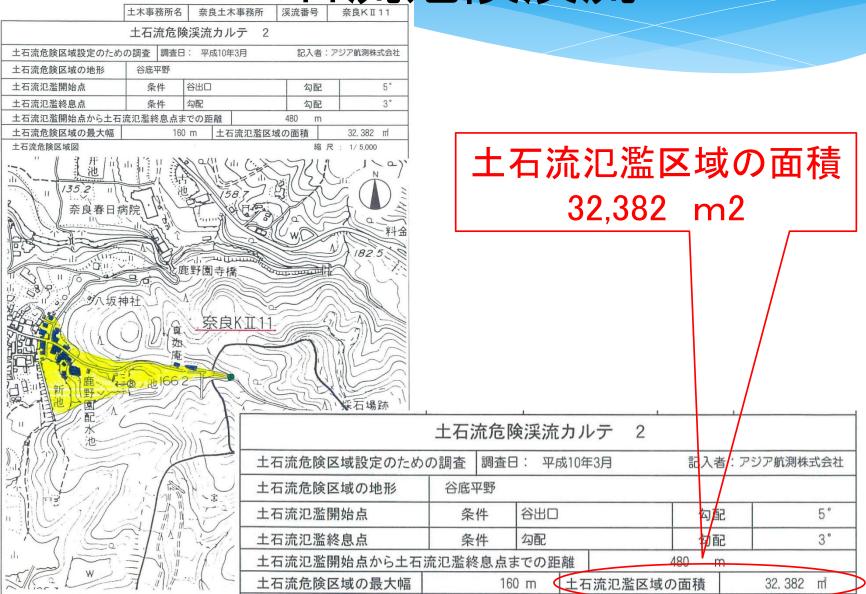
土石流危険渓流カルテ (奈 KⅡ-11: 鹿野園 C 沢) (平成 9 年度)

土砂災害防止に関する基礎調査(土石流)(奈 KⅡ-11: 鹿野園 C 沢)(平成 19 年度)





		土石流 調査日 人家戸 弱者が): ¥	渓流力 成10年3月		3	記入者:	・アジ	ア航測株	式会社	
区域 関連施設 3共施設種類	数量	人家戸		成10年3月	1 4		記入者:	アジ	ア航測株	式会社	
関連施設 共施設種類・	数量		数: 2		**						
共施設種類·	数量		数: 2								
共施設種類·	数量	弱者於		20 (20)						
	数量	1	設:	. ()						
路·鉄道)	上記以外の公共施設種類・数量			٠ ()						
路·鉄道)	田畑			. 6 ha	(0.6	ha)					
交通網(道路·鉄道)											
渓床堆積土砂の有無											
存在する区間(m)											
その厚さ(m)										MI PROCESSO	
その幅(m)											
表面の形状				11-1/2							
堆積土砂上の植生									34		
浸食断面											
裸地の面積率			%								
禿赭地の面積率			%								
伐採跡地の面積率			%								
新しい亀裂・滑落崖											
基数				54 - 1550 TA	10207000		147				
未満砂量(総量)			m³								
		ダムの諸元(計画値)				現地踏査結果					
所管	高さ H (m)	基礎長 B (m)	天端長 B2 (m)	元河床 勾配 10	貯砂量 V (m³)	未満砂 高 △H (m)	堆砂長 LO (m)	堆砂幅 B1 (m)	現況 堆砂量 V1 (m³)	未満郊 量 V-V0 (m²)	
							- 0				
					-						
					ioa -						
	_										
_											



調査 要因	調査	項目		調査日	1: 3	平成10年	3月		80
	土石流危険	区域					9,000		
保全対象	人家戸数			人家戸	数:	20 (20)		
対象	災害弱者関	連施設	弱者施	設:	. ()			
~.	上記以外の公	共施設種類・	公共旅	設:	٠ (.)			
	田畑	***	耕地面	積:	0.6 ha	(0.6 ha)		
Co.	交通網(道路	A·鉄道)							
33	渓床堆積土	砂の有無				I			
	存在する	区間(m)	1						
漢床	その厚さい	n)	,						
渓床の状況	その幅(m)								
	表面の形								
	堆積土砂.								
	浸食断面						_		
	地被状況								
山腹	裸地の面	資率	*	%			OWNERS OF E		
の状況	禿赭地のi		%		0.000	143-1070			
況	伐採跡地 (%						
	新しい亀委								
	基数	70.2: N - 70.1			- 00		S0 5		
	未満砂量	(総量)				m³			
				ダムの	諸元	(計画値	1)		IJ
砂防施設	名称	所管	高さ H (m)	基礎長 B (m)	天端 B2 (m)	長 元河(勾面 10		尚	#
の効果	,								

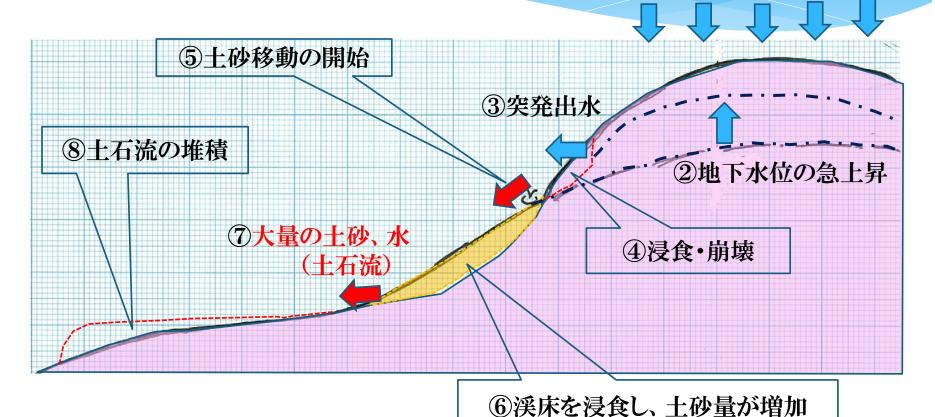
記述が無い

生產土砂量

(土石流の土砂量)を 算定することとした

土石流発生の機構

①規模の大きい降雨



- ④浸食・崩壊する土砂量⇒崩壊可能土砂量
- ⑥渓床を浸食して増加する土砂量⇒移動可能渓床堆積土砂量
- ⑧土石流として堆積する土砂量⇒生産土砂量

=④崩壞可能土砂量+⑥移動可能渓床堆積土砂量

崩壊可能土砂量

地形地質特性と既存崩壊の分布



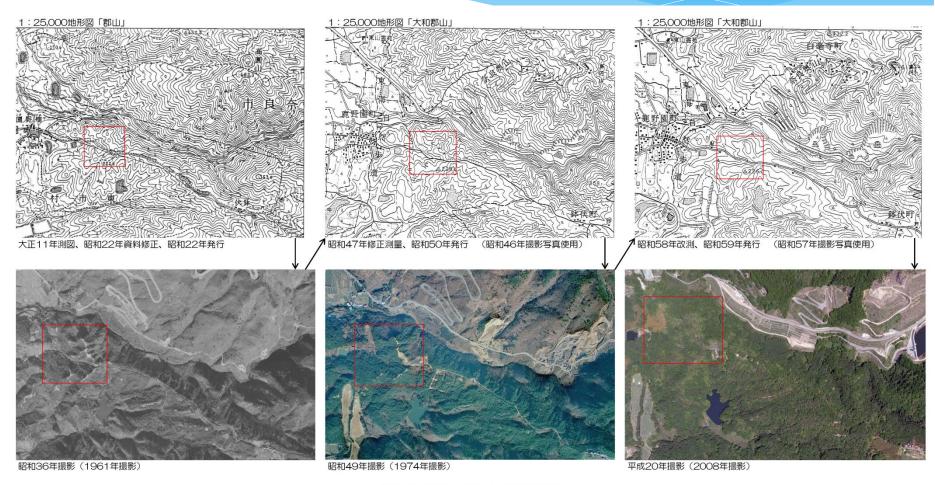
①山腹斜面における崩壊を予想して、

あるいは、

②谷の源頭部において、既に過去に発生した崩壊により堆積している土砂の量から、

崩壊可能土砂量を推定する

崩壞可能土砂量



新旧の地形図および空中写真の比較結果

調査地周辺において、土砂災害に由来する崩壊記号や崩壊裸地は確認されない。(人為的な地形改変に伴う裸地は認められる。)

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図及び空中写真を複製したものである。 (承認番号 平28情複、第203号)

崩壊可能土砂量



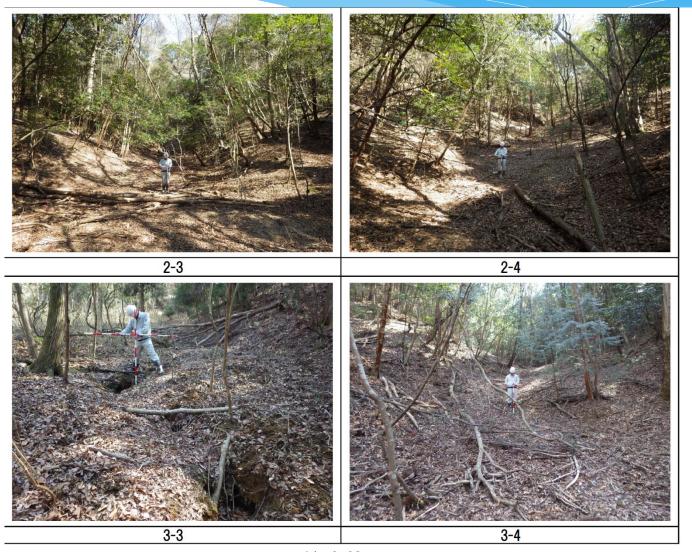
平成20年撮影(2008年撮影)

この写真は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の空中写真を複製したものである。 (承認番号 平28情複、第203号)

移動可能溪床堆積土砂量



移動可能溪床堆積土砂量



現地状況

移動可能溪床堆積土砂量

移動可能渓床堆積土砂量の算出 ⇒ 3043.5 m3

計画地

渓床調査地点	1-0	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7
存在する区間(m)	_	-	-	-	20	30	45	25
平均幅(m)	_	ı	-	-	10	15	6	4
平均堆積深(m)	_	ı	-	-	1	1.5	1	0.5
平均土砂量(m³)	_	ı	-	-	200	675	270	50
表層の土質	水路/道路	水路/道路	水路/道路	道路	礫混じり土砂	礫混じり土砂	礫混じり土砂	礫混じり土砂
堆積土砂上の植生	_	ı	ı	-	竹林/低木	低木	低木	低木
侵食状況	侵食なし							
渓床調査地点	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	3-4
存在する区間(m)	50	75	30	40	45	35	35	25
平均幅(m)	0.4	10	6	4	5	6	6	3
平均堆積深(m)	0.3	1.5	1	0.5	1	0.5	0.5	0.3
平均土砂量(m³)	6	1125	180	80	225	105	105	22.5
表層の土質	礫混じり土砂							
堆積土砂上の植生	竹林	低木	低木	低木	植林	植林	低木	低木
侵食状況	侵食なし	侵食なし	侵食なし	侵食なし	ガリ状侵食	ガリ状侵食	ガリ状侵食	侵食なし

移動可能渓床堆積土砂量 合計(m³) ※概算値 3043.5

移動可能渓床堆積土砂量の試算結果(赤矢印:存在する区間、青枠:渓床調査地点)

現在の渓床に蓄積されている移動可能渓床堆積 土砂量は、約3050m3である。 仮に、土石流が発生した場合、 土砂の量は、厚さ10cm以下

(3050m3/32,382m2)で、

先に、上ノ池に流入、埋積することから 集落に達する懸念は極めて小さい。

新斎苑建設は、発生区域の集水量を減らす工事であり影響は及ぼさない。

2016年5月22日の説明会以降に以下の点を変更しております。

①文言・表現の見直し

ページ	修正前
2	進入路工事により発生域は減少する
6	生産可能土砂量
7	土石量発生の機構
"	生産可能土砂量
14	蓄積されている移動可能土砂量は
"	発生区域を減らす工事で

	修正内容	修正後(現在)	修正理由
	追加	進入路工事により発生域の集水量は減少する	表現の修正
	削除	生産土砂量	文言統一
→	修正	土石流発生の機構	誤字
_	削除	生産土砂量	文言統一
	追加	蓄積されている移動可能渓床堆積土砂量は	文言統一
	追加	発生区域の集水量を減らす工事	表現の修正

②資料の出典元を追記しております。